

令和4年度 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 学校評価

評価(集計平均) A…4～3.21 B…3.2～2.41 C…2.4～1.61 D…1.6～0					
教育方針	児童生徒一人一人の障害の実態や特性に応じて、意欲的に生きる力を養い、社会的自立に向けて、個々の教育的ニーズに応じた指導と支援を行う。				
学校教育目標	1 一人一人の児童生徒の持てる力を引き出す 2 社会的自立と自己実現を目指す 3 すこやかな体と豊かな心を育てる	本年度 学校経営 の 重点	(1)アセスメントの積極的な活用と保護者とのより確実な連携 (2)学部を超えた情報共有と連携 (3)新型コロナウイルス対応と安全管理の徹底	本年度 学校経営の 重点項目	ア 教科指導及び生徒指導(道徳・人権・自立活動・特別教育活動を含む) イ 訪問教育の充実 ウ 健康管理に関する指導 エ 防災教育の推進 オ 研究推進 カ 地域の特別支援教育のセンター的機能 キ キャリア教育・就労支援の推進 ク 「心のバリアフリー」の推進 ケ 新型コロナウイルス感染症等の対策を含めた安全管理の徹底 コ ICT教育の推進 サ 保護者連携 シ 関係機関との連携 ス 地域住民との協同や理解促進

本年度の重点項目(ア～ケ)	番号	分掌等	本年度の最重点目標と具体的方策	職員評価	職員集計平均	保護者評価	保護者集計平均	総括(成果及び課題と改善方策)	学校関係者評価
ア オキ	1	小中学部	児童生徒の細やかな実態把握のもと個別の指導計画を作成する。授業をチームで検討、改善し、観点別評価につなげる。	B	3.19	A	3.74	担任が把握した個別の課題を集団の中で取り組んでいくのは難しいが、授業の担当と支援者で協力して進めた。今後も授業を検討する機会を作りながら進めていく。	【コロナ禍の対応】 ・本校、さくら訪問学級、ひかりの森分教室、総合リハビリテーションセンターとも感染対策を引き続き行い、安心して学校生活を送っていた。 ・さくら訪問学級は病棟閉鎖があったが、病棟や前籍校との制限がある中、ICTを活用して授業を実施し、授業時間を確保することができており良かった。 【教員の専門性】 ・重点項目番号8「教科等の目標を意識した「各教科等を合わせた指導」を行う。」について、評価は高く、教員はしっかり取り組んでいると思うが、合わせた指導と教科の目標や狙いを教員が理解して取り組むことが大切である。 【情報の提供・発信】 ・ICTの取組みはわかりやすい。ICT機器を利用した授業の様子を保護者に見てもらう機会を設けることができれば、映像を見てもらうことで学校での活動内容や児童生徒の様子を知ってもらうことができいいのではないと思う。 ・学校の情報を発信するにあたり、個人情報保護の観点から引き続きしっかりと対応をお願いする。
	2		中学部卒業後の進路を視野に入れ、キャリア教育の意識をもって指導にあたる。本人と保護者の思いが指導や支援に反映できるよう、連携を深める。	A	3.22				
ア オキシ	3	高等部	生徒が興味や関心を持って学習に取り組み、達成感と自信に繋がる授業づくりに取り組む。	A	3.21	A	3.76	生徒の興味関心や取り組む課題について、教師間の共通理解や連携を深めた。学習の場面では自ら理解し、主体的に活動できるような授業作りに取り組んだ。少しの変化に気づいて評価したり、教師や生徒同士のコミュニケーションを活発にすることで達成感や自信を高め、学習への意欲を引き出すことができた。	
	4		教育活動の様々な場面で生徒と向き合い、生徒一人一人の実態に即した指導支援方法を教師間で共通理解し、生徒が安心して学べる環境づくりに努める。	A	3.24			日々の様子や課題、指導や手立てについて共通理解を深めた。個々の生徒に対してどのような支援が必要であるかなどについて話し合い、それぞれの授業作りや授業改善につなげることができた。達成感や自信を持つことで、安心して学べる環境作りが繋がり、生徒から進んで課題に取り組もうとする場面が増えた。年度を越えて目標や手立て等の支援の継続のあり方が課題である。	
ケ サ	5	総務部	学校行事は密にならないよう配慮した上で、リモート参加も活用し、児童生徒が楽しみにしている行事が安全に実施できるよう努める。	A	3.37	A	3.63	上野スポーツ大会や創作祭は学部学年単位で実施し、当該学部学年の保護者のみの鑑賞とした。また児童生徒は大型テレビを見ながらリモート参加することで密にならないよう配慮した。	
	6		コロナ禍の中、感染症対策をした上で、参観日等は密にならないよう配慮し、学校と保護者のつながりだけでなく、保護者相互のつながりも大切にしたい。(学級懇談等)	A	3.4			参観日には授業参観だけでなく学級懇談も実施し、保護者相互の交流及び情報交換ができた。また成人を祝う会を3年ぶりに実施し、卒業生の近況や保護者とも情報交換の場をもてた。	
ア オサ	7	教務部	懇談などを通じて、保護者と共通理解しながら個別の指導計画を作り、評価を共有する。	A	3.37	A	3.74	今後も丁寧な説明を心掛け、保護者と協力して指導を進める。次年度より個別の指導計画の目標、評価が「各教科」となるため、「各教科等を合わせた指導」についてはより丁寧な説明を行う必要がある。	
	8		教科等の目標を意識した「各教科等を合わせた指導」を行う。	A	3.3			各教科をどの時間に行うかを示した「指導形態系統表」を配布し、個別の指導計画記入説明会を実施した。次年度より、個別の指導計画が全県統一様式となり、「教科」をどの時間で指導するのかを記載することとなるため、今後も「各教科等を合わせた指導」については新着オリエンテーション等を通じて職員に丁寧に説明していく。	
ア イケサス	9	情報部	広く一般に対して、各学部・学年で行われている学校教育活動についての情報発信に努め、ブログを定期的に更新し、連絡帳でアクセスの促進をする。	A	3.33	A	3.39	各学年の協力もあり、1ヶ月あたり最大で700人の訪問者を記録し、訪問者数は70%増加した。特に高等部修学旅行記事へのアクセス数が多かった。今後も各学部と連携し情報発信に努めていきたい。	
	10		教育用クラウドサービスの活用方法についての研修や実践を行ったり、iOS有料アプリケーションの活用について研修を通じてICT活用した指導を促進する。	A	3.3			今年度、アンケート機能である「Forms」の研修を中心に行い、職員向けのアンケートで活用される場面が徐々に増加してきている。また、有料アプリケーションの研修も多く取り入れ、行事等で使用された。今後は、個々の端末にアプリケーションをインストールし、授業場面等での活用が広がるように研修等を行いたい。	

ア ク サ	11	生活部	交流及び共同学習において、発達段階に応じた場の設定を行い、意欲や目的意識を高めるための事前指導の充実を図る。 自然体験活動と宿泊学習において、学びの成果を発表したり、見聞きしたことを教科の中で取り上げたりするなど、体験を通じて学んだことをその後の生活学習に活かすための事後指導の充実を図る。	A	3.27	A	3.52	事前学習は写真等を使って内容を確認することで交流に見通しを持って意欲的に参加できた。自然体験活動と宿泊学習の事後学習は国語の授業で感想文を書いて読み合うことで他者理解へとつながった。自分の役割に自覚を持てるようになり、学校の係活動により意欲的に取り組めるようになった。	【保護者との連携】 ・保護者アンケートの回答に、「中学部の時の方が保護者と教員とのコミュニケーションがとれていた。」との回答があった。コロナのこともあり会話を控えなければならない状況もあったが、今後は、「積極的に保護者とコミュニケーションをとる。」「まずは教員から話しかける。」ことなどを意識して、保護者と教員がしっかりと連携をとれるようにする。
	12	生活部	業務内容と報告書作成手順等をオリエンテーション資料としてまとめる。業務を可視化し、現状や課題を共通認識する。 他の分掌や各学部と連携を図り、業務内容の整理を行う。	B	3.19			4月当初に新転任者に研修を行うことで生活部の役割や業務内容を共通認識することができた。情報部と連携し、携帯電話持参のルール等を新たに作成することができた。	
ウ ケ サ シ	13	保健部	感染症対策を継続して行い、日常の授業や学校行事に安心して取り組めるようにする。医療的ケアを必要とする児童生徒や保護者の要望に応える。	A	3.43	A	3.67	家庭や学校での検温チェックや手指消毒を継続して行い、授業や学校行事を行うことができた。医療的ケアの児童生徒については、随時医療的サポートの委員会を開き共通理解を図った。	【関係機関との連携】 ・卒業前や卒業後に進路で悩む保護者が多い。就労支援A型等、進路先には様々な選択肢があり施設の特徴を把握することが難しい保護者がいる。支援センターでは、施設の特徴等情報を提供することができ、今後も卒業後のことも含め情報提供をしたい。
	14		手洗い・消毒・マスクの着用等を毎日の学校生活で継続して行うよう、学校全体で児童生徒に働きかけたり保護者だより等で呼びかける。医療的サポート推進事業実施委員会を必要に応じて開き、指導医・主治医・看護師と共通理解を図りながら、児童生徒が安全に学校生活や行事に参加できるようサポートする。	A	3.45			保健だよりでは特に感染症対策については、わかりやすく保護者や児童生徒に伝え続けた。医療的サポートの必要な児童生徒については、保護者の要望に応えるため、主治医の指示を主治医訪問等で具体的に確認してきた。看護師を含めてその都度委員会を開き、共通理解を図った。	
ア カ サ シ	15	支援研修部(支援)	個別の教育支援計画に基づき、適切な支援ができるようにする。必要に応じて、支援会議を開催し、福祉、医療等関係機関と連携を図り、支援につないでいく。	B	3.07	A	3.49	各学部、学年において、個別の教育支援計画に基づき適切な支援が行えるように取り組んだ。次年度は新様式を使用しながら、より適切に支援できるように取り組みたい。支援会議については、相談支援専門員との連携を活かしながら、今後も行っていきたい。	【関係機関との連携】 ・卒業前や卒業後に進路で悩む保護者が多い。就労支援A型等、進路先には様々な選択肢があり施設の特徴を把握することが難しい保護者がいる。支援センターでは、施設の特徴等情報を提供することができ、今後も卒業後のことも含め情報提供をしたい。
	16		地域の教育委員会、県内各地域のネットワークやエリアコーディネーターと連携しながら、適切な情報提供や地域支援を行う。	B	3.15			三田市教育委員会からの依頼により、巡回教育相談の実施及び就学相談会に参加し、適宜支援を行った。相談を担当できる教員を増やすように取り組んだ。病弱教育に関する相談に応じられるように専門性を高める必要がある。	
ア オ シ	17	支援研修部(研修)	児童生徒が主体的、対話的で深い学びができるように、日々の授業研究や授業実践研修会を通して、資質および実践力向上を目指した授業研究を行う。	B	3.13	A	3.52	各学部、学年において、日々授業研究を行いながら、授業実践を行った。また、教科会ごとの授業研究及び授業実践研修会を通して研修を行った。よりよい授業づくりができるような体制について検討していきたい。	【学校評価】 ・保護者アンケートは文字だけだとわかりにくい。参観日など保護者が来校する機会に日常の様子を映像で見せることで、アンケートの回答がしやすくなるのではないかとと思う。 ・保護者アンケートの質問をより回答しやすい内容にし、意見を教育の改善につなげられるようにしてもらいたい。 ・ICTを活用するなど保護者アンケートの記述方法や回収方法を検討し、より率直な意見が回答できるような環境を整備してもらえたらと思う。
	18		研修会や実践報告会を設定し、それぞれの取り組みを共有しながら、特別支援教育を中心とした専門性の向上を図る。	B	3.16			研修講座については、夏季休業中に対面形式とオンライン形式の両方の方法で実施した。自立活動実践報告会を対面形式で行い、それぞれの実践について情報共有を行った。今後も、個別の指導計画を活用し、自立活動の専門性を高められるようにしていきたい。	
キ サ シ ス	19	キャリア教育部	社会生活に興味関心を高め、社会的・職業的自立に必要な力を育てるため、地域の関係機関と連携し、職場見学、校内実習、現場実習、校外学習、技能検定等の体験的活動に取り組む。	A	3.45		3.73	本人を中心として保護者、学校と相談して現場実習の設定ができた。高等部の各学年で技能検定に取り組み、小学部、中学部も日常生活の指導や授業において内容の一部に取り組めた。今後、実習や技能検定につながるような小・中・高と一貫した学習や取組の内容を検討していきたい。	【学校評価】 ・保護者アンケートは文字だけだとわかりにくい。参観日など保護者が来校する機会に日常の様子を映像で見せることで、アンケートの回答がしやすくなるのではないかとと思う。 ・保護者アンケートの質問をより回答しやすい内容にし、意見を教育の改善につなげられるようにしてもらいたい。 ・ICTを活用するなど保護者アンケートの記述方法や回収方法を検討し、より率直な意見が回答できるような環境を整備してもらえたらと思う。
	20		ニーズに応じた進路に関する情報を提供するため、キャリア教育だよりを発行し、進路ガイダンスや実習説明会、進路3者懇談会、個別の進路相談会、職員向けの研修を実施する。	A	3.49			進路ガイダンスやキャリア教育だよりで、進路先の情報提供や、事業所等体験会の案内をしたことで、生徒、保護者が見学や体験会に積極的に参加した。技能検定や企業、福祉事業所の見学会、進路についての自主研修を行うなど、充実した教員向けの研修を行うことができた。	
ア オ	21	人権教育推進委員会	児童生徒が自己実現や自尊感情を育み、主体的に取り組めるような目標を設定し、学校行事や交流及び共同学習を実施する。	B	3.18	A	3.67	コロナ禍での学校行事や交流及び共同学習の為、実施内容の変更や縮小はあったがICTを使ったオンライン等の利用などで、積極的に活動ができた。今後もICT等を積極的に活用して更に交流が盛んに行える様に計画をたて、相互理解を図れるようにしていきたい。	【学校評価】 ・保護者アンケートは文字だけだとわかりにくい。参観日など保護者が来校する機会に日常の様子を映像で見せることで、アンケートの回答がしやすくなるのではないかとと思う。 ・保護者アンケートの質問をより回答しやすい内容にし、意見を教育の改善につなげられるようにしてもらいたい。 ・ICTを活用するなど保護者アンケートの記述方法や回収方法を検討し、より率直な意見が回答できるような環境を整備してもらえたらと思う。
	22		本校や分教室等の実態に即した人権教育を、授業や日常生活に生かせるように年に2回ニーズに応じた研修会を実施する。	B	3.18			コロナ禍を考え、年に2回、本校は学部学年、分教室でそれぞれの内容にあった研修を行い、人権研修会を実施することができた。また、研修で学んだ教材やDVDから授業に役立てるなどの成果もあった。今後も今のような形で研修を計画していきたい。	
シ ス	23	学校評議員会	令和4年度の教育活動の理解促進と学校経営ビジョンの実現のため、学校評価重点目標とアンケート項目を1学期中に保護者・学校関係者に公表する。職員は年度途中に学校評価の進捗状況を確認・評価するとともに、年度末に、各部署に応じて学校評価アンケート(職員・保護者・学校関係者)を実施し、評価を行う。	A	3.3	A	3.59	学校評価重点目標の公表や評価については年度当初の計画通りに実施することができた。今後は、年間のスケジュールにとらわれることなく、日常から学校評価目標を確認・評価し、随時改善することを心がけたい。	【学校評価】 ・保護者アンケートは文字だけだとわかりにくい。参観日など保護者が来校する機会に日常の様子を映像で見せることで、アンケートの回答がしやすくなるのではないかとと思う。 ・保護者アンケートの質問をより回答しやすい内容にし、意見を教育の改善につなげられるようにしてもらいたい。 ・ICTを活用するなど保護者アンケートの記述方法や回収方法を検討し、より率直な意見が回答できるような環境を整備してもらえたらと思う。
	24		学校運営のさらなる改善のため、各部・専門部・委員会ごとに設定した重点項目を、本校・訪問学級・分教室の教職員全員で共有し、それぞれの部署に応じて、重点項目の実現を目指す。	B	3.19			本校、さくら、ひかり、総リハとそれぞれで教育活動を実施しているが、それぞれの活動だけでなく、教職員全員で最重要目標を共有し、上野ヶ原特別支援学校として活動できるよう目指したい。	